

イニシエーションスピーチ



舟見 哲也君
(上田バス株式会社)

私は昭和35年12月に上田市に生まれ、西小、三中、上田染谷丘高校を経て明治大学経営部に進学し、卒業後は上田に戻り上田交通(株)に入社、開発部課長の際には、こちら東急REIホテルの建設計画を作成し、その後、経理課長を経て平成15年に現在の上田バス(株)に出向し、現在に至っております。長いサラリーマン生活の中で、様々な経験をさせていただきましたが、その中で特に思い出に残っているのが自然災害、あるいはリーマンショックなどの世界的不況、新型コロナウイルスへの対応など、いずれも経営を左右するものでした。

特に自然災害は、平成26年2月に起こった大雪。午前4時頃に私の携帯電話が鳴り、出ると整備管理者から内容は「雪が多くてバスが動けません」というものでした。外を見るとしんと雪が降り、菅平高原のライブカメラでも雪が積もっています。ただその時点では国道も除雪していたので始発から数本は路線バスを動かしましたが、雪は更に積もり完全に道をふさぎ、やむなく運休させました。真田地域のある集落では完全に道路が遮断され陸の孤島で、数日間出られなかったといいます。

また、前後しますが、平成23年の東日本大震災ではその日以降は3月の貸し切りバス売り上げがゼロ、バスの燃料も流通が滞り、事業存続の危機に陥りました。

記憶に新しい令和元年10月13日に起きました上田電鉄別所線千曲川橋梁の崩落。時系列での当社の対応は、翌10月14日、上田市役所にて代行輸送の打ち合わせを行い、15日から下之郷駅⇄上田駅の代行輸送を開始。車両6台と増便3台を使い一日19.5往復で運行。11月16日からは城下駅までの開通により上田駅⇄城下駅を一日31往復で千曲川橋梁の復旧まで運行いたしました。

その後、新型コロナウイルスによる外出制限等により売り上げも激減いたしました。現在ではコロナ前の水準に戻りそれを上回る売り上げとなっています。

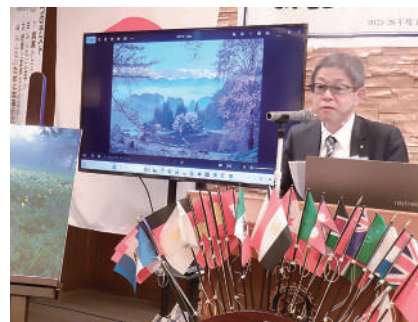
社会インフラはどうしても災害に弱く多くの市民生活に甚大な影響を与えますが、過去を振り返れば上田丸子

電鉄時代に下之郷駅から丸子町に走っていた鉄道西丸子線は台風でトンネルが崩落、そのまま廃線となりました。

さて、私の経営しているバス事業ですが、最盛期の昭和40年初頭には400万人の輸送人員で推移し、上田交通が丸子線・真田線を廃止したこともあり昭和の終わり頃までは別所線を上回る輸送量でしたが、その後マイカーへと生活様式が変わったことにより、輸送量が減少、現在では年間30万人程度になっています。(一時的にですが、別所線の代行輸送により80万人まで増えました。)

また、上田交通の鉄道バス全体の輸送人員も1964年の1200万人がピークでした。その頃は郊外型店舗がなく、上田の街の中心部は大変な賑わいでした。先日商工会議所の視察旅行で宇都宮市のライトレールを見学しましたが、市長さんの方針がコンパクトシティの推進とのことで、新しくできたライトレール(路面電車)沿線にはマンションや商業施設が新たにでき、市の中心部へどんどん移住しているとのことです。コンパクトシティを標榜している市町村は近隣では小諸市がそうで、駅を中心に半径何キロと決め、そこを重点的に整備しています。

輸送量が激減したバス事業ですが経営はどうだったかという、非常に困難を極めており、昭和40年代以降現在に至るまで何十年と路線バス事業は赤字です。その赤字を他の部門の黒字で埋める内部補填を続けて路線を維持してまいりましたが、近年行政より運行にかかる経費補助を受け、また国の政策が路線バスを残すという方針にシフトしてきています。人々は生存権など生まれ持つ権利があり、聞き慣れない言葉かと存じますが、人には移動の自由『移動権』もその一つであるという考え方です。輸送人員の減少に伴う地方公共交通の危機は人々の生活を脅かす脅威となりつつありヨーロッパなどでは、それは国が責任をもって保障すべきものとするのが主流の考え方になっています。



私の経営方針ですが、何十年にわたり縮小縮小によって残っている路線は今では住民の生活に必要な不可欠な路線であって、赤字であってもこれを絶対維持するという事です。それはひいては地域の単位を守ることにつながります。もし路線バスが無くなったら、高校生がすべて親の送迎による登下校になってしまいます。そのような地域に人々は住み続けることができるのでしょうか。近隣では佐久市が路線バスがなくなり多くの住民が地元に住めなくなり佐久平の駅近くに移住する傾向になってきています。コンパクトシティというのは聞こえは良いですが昔からの集落はもういないというもので日本人の伝統や生活習慣を壊すものであると思っています。良き日本の文化を守るためにも今後も路線バスの灯を消さない所存でございますので、宜しくお願い申し上げます。

次に私の趣味の話です。私は今でもゴルフはやりません。その代わり若い頃から釣りが好きで、大学の先輩のアランフェスの前マスターの山宮さんを師匠として溪流釣りにのめり込み、休日ごとに上小や遠く富山の川にイワナやヤマメを求め遠征に出かけていました。皆さん魚は泳ぐものだと思いますが、イワナはエラを使って地を這うように歩いて移動することもあるんです。その懸命に生きている姿を見て『殺生はやめよう』と思ったのが50歳の時で、それ以降釣りはやっていません。

また40歳の頃に庭でバラ作りをはじめて、一時200種類以上育てていましたが、そのとききれいに咲いた花を写真に残そうと思ってはじめてのが、現在の趣味である写真で、現在、週末はほとんど家をあけて各地の風景などを撮り歩いています。(写真紹介は次回の卓話にて)

例会日誌

12月10日(水) 晴れ

2025～2026 No.19

- 司 会 飯島裕也君
- 斉 唱 「我等の生業」
- ラッキー賞 松山賢太朗君(季節のアレンジ花)
- 友 愛 賞 一之瀬治君(蓑輪君より東北土産)
田守正彦君(柳澤誠君より横浜のお土産)



■会長挨拶

山寺 高太郎 会長



今年は本当にびっくり想定外の連続の年でした。簡単に振り返ってみましょう。
【1月】・三菱UFJ銀行の貸金庫から女子行員が金塊約20kgー約2億6千万円相当を盗んだ

・埼玉県八潮市の県道で、トラックが走行中に道路が陥没し転落した

・トランプ大統領が第47代USA大統領に就任。その日に大量の大統領令に署名

【2月】・ホンダと日産自動車の経営統合協議が打ち切り
・トランプ大統領がウクライナのゼレンスキー大統領をTV放映の中で「感謝が足りない」と激しく罵倒

【3月】・旧統一教会の解散命令を東京地裁が決定

・ミャンマー中部でM7.7の大地震3700人以上の死者

【4月】・大阪関西万博開催

・トランプ大統領相互関税10%、相手国非関税障壁に対して24%の輸入関税を発表

【5月】・精密機械製造会社「大河原化工機」の冤罪賠償決定。賠償額1.6億円

・核保有国同士のインド軍とパキスタン軍が交戦4日

後に停戦

- ・新ローマ教皇に初の米シカゴ出身のレオ14世選出
- 【6月】・日本郵便のトラック運送事業許可の取り消し
- ・国分太一 コンプラ違反でTOKIO突如解散
- ・イスラエル、USAがイラン核施設等に空爆

※以降は次号に掲載いたします。

■幹事報告

倉島 博 幹事



- ・12月レート 1\$=156円 (←154円)
- ・会員増強委員会より全クラブ対象アンケート依頼が届く。各自ご対応ください。
- ・豊かな環境づくりより「残さず食べよう30・10運動」のご案内が届く。

■出席報告

	正会員数	ベース	欠席	メイク	出席率
本 日	53	49	21	—	57.14%
前々回	53	49	26	17	81.63%

ニコニコBOX

(敬称略)

飯島(裕)、石井、上原、上條、工藤、倉島、小林、関滝澤(修)、竹内、竹花、玉井、田守、塚田、手塚(達)橋詰(洋)、舟見、松山、蓑輪、母袋(創)、母袋(卓)柳澤亨、山寺、渡辺

※渡辺敏成君/来週はXmas会。今年のトナカイは誰に?

舟見さん、卓話よろしくお願いします。

※上原 達君/舟見さん、卓話よろしくお願いします。

※工藤 恒君/舟見さん、スピーチ楽しみです。

※竹内 強君/手塚さん、土曜日の花火楽しかったです。

舟見さん、卓話期待しています!

※母袋卓郎君/先月から次女夫婦が母屋にお試し移住で引っ越しを。少し賑やかな我が家です。

※山寺高太郎君/中国人観光客の減少は、現在あまり大きくない様です。

本日の金額/36,000円 累計/602,000円

[次週のプログラム]

12月24日(水) クラブフォーラム 31日(水)・1月7日(水) 休会